

論文

妊婦が希望する妊娠中の母乳育児支援

—初産婦と経産婦の比較—

井上 理絵¹⁾, 富岡 美佳¹⁾, 梅崎 みどり¹⁾, 流 舞衣²⁾

Rie Inoue, Mika Tomioka, Midori Umezaki, and Mai Nagare

キーワード： 母乳育児支援, 初産婦, 経産婦

Key words : breastfeeding care , primipara , multipara

要旨：母乳育児には様々な利点があることが知られているが、母乳育児の確立や継続のためには周囲からの支援が必要である。特に母乳育児継続のための環境として、医療者の支援体制は重要な要因の一つとされている。本研究では、妊婦が希望する母乳育児支援の内容と実際に受けている支援の内容を調査し、初産婦と経産婦が求めている支援の内容を明らかにすることを目的とした。その結果、希望する産後の栄養方法は初産婦、経産婦ともに母乳栄養が最も多く、約 70%の妊婦が希望していた。妊娠中に指導を受けた母乳育児支援の割合は初産婦に比べ経産婦のほうが少なかった。しかし、経産婦であっても妊娠中に育児指導を希望している割合は高く、特に「妊娠中の異常」、「産後の乳房ケア」については 8 割以上が希望しており、その他の項目も 6 割以上が希望していた。一方、初産婦が希望する妊娠中の育児指導は「産後の乳房ケア」、「分娩の準備」が最も高く、次いで「妊娠経過の流れ」、「分娩の時期」であった。初産婦・経産婦ともに産後の母乳育児に関心が高いことがわかった。経産婦は初産婦に比べ前回の経験があるため、指導が省略される傾向にあるが、実際には初産婦と同様に指導を求めているという結果が明らかとなり、ニーズを踏まえた指導の重要性が示唆された。

I. はじめに

母乳育児には様々な利点があることが知られている。世界的に見ても 1989 年に WHO と UNICEF が出した共同声明「母乳育児成功のための 10 か条」によって母乳育児は推進されており、医療現場でも母乳育児を推進する病院は「赤ちゃんにやさしい病院(BFH)」として認定され母乳育児は世界中で推進されている。

しかしながら我が国では、母乳育児を継続するには様々な支援が必要とされ、厚生労働省の調査によると日本人妊婦の 96%は母乳育児を希望しているにもかかわらず、出産後 1

¹⁾ 山陽学園大学看護学部看護学科

²⁾ 元山陽学園大学看護学部看護学科

か月では完全母乳栄養の母親は46%、3か月では38%まで減少するという報告がある¹⁾。これまで母乳育児の継続を阻害する要因に関する報告は多くなされており、その主な要因として、母親自身および母乳そのものの要因、子ども自身の要因、子どもおよび母親を取り巻く環境の要因などがあげられる²⁾。母乳育児継続のための環境として、医療者の支援体制は重要な要因の一つとされるが、特に初産婦は母乳育児の経験がなく、母乳育児継続には支援が必要であるとされている。また経産婦は出産・育児の経験があるため、母乳育児支援は省略される傾向にあるが、妊娠中からの支援が重要であることに変わりはない。本研究では、妊婦が希望する母乳育児支援の内容と実際に受けている支援の内容を調査し、初産婦と経産婦が求めている支援の内容を明らかにすることを目的とした。

II. 研究目的

初産婦と経産婦が希望する母乳育児支援の内容と、実際に受けている支援の内容を調査し、初産婦と経産婦が求めている支援の内容を明らかにする。

III. 研究方法

1. 研究期間

平成26年7月から9月に、A県内の出産施設を持つ産婦人科病院周産期外来にて実施した。

2. 研究対象

地方都市A県B市に居住する妊娠20週以降の初産婦55名、経産婦50名を対象とした。妊婦の体調等を考慮し、妊娠中で安定期とされる妊娠20週以降を対象とし設定。調査当日、妊婦健診で来院した妊婦のみを対象とし調査について説明を行った。

3. 研究方法およびデータ収集方法

医療施設に協力を依頼し、承諾が得られた妊婦に無記名自記式質問紙調査を実施した。

得られたデータは数量化して処理し、個人が特定されないよう配慮した。

分析ソフトはSPSS16.0JforWindowsを使用し、記述的統計を行った。また、妊娠中に希望する母乳育児支援については χ^2 検定を行い $P<0.05$ とした。

IV. 倫理的配慮について

対象者に研究の目的、趣旨、調査時間が診療や保健指導に差し支えないことを文書と口頭で説明し、調査は自由意志による参加とした。また、本調査に参加しなくても診療上不利を受けることがないことについても口頭及び文書で説明した。本研究は研究者が所属する大学の倫理審査委員会の審査・承諾（番号：平26大024）を得て実施した。

V. 結果

1. 対象者の属性（表1）

対象者は初産婦55名、経産婦48名（回収率100%）。初産婦の平均年齢は30.1歳、経産婦の平均年齢は32.1歳であった。同居家族は、初産婦、経産婦ともパートナー（または夫）との同居が90%以上となっていた。初産婦は実父母との同居が8名（14.5%）であったが、経産婦は3名（6.0%）であった。また義父母との同居は経産婦の方が多く6名（12.0%）

であった。

表 1 対象の属性

項目	内容	経産婦 (n=48)		初産婦 (n=55)	
		平均	度数 (%)	平均	度数 (%)
年齢		32.1	48 (100)	30.1	55 (100)
出産回数		1.3	48 (100)		
妊娠数週		28.8	48 (100)	31.5	55 (100)
同居家族 (複数回答)	パートナー		47 (97.9)		50 (90.9)
	子ども		46 (95.5)		
	実父母		3 (6.2)		8 (14.5)
	義父母		6 (12)		3 (5.5)
	姉 (義姉も含む)		0 (12.5)		3 (5.5)
	妹 (義妹を含む)		1 (2.0)		4 (7.3)
	祖父		2 (4.1)		1 (1.8)
	祖母		2 (4.1)		2 (3.6)
	その他		1 (2.0)		0 (0)
	無回答		0 (0)		2 (3.6)
	希望妊娠	あり		47 (97.9)	
なし			1 (2.0)		2 (3.6)
不妊治療	あり		6 (12.5)		11 (20.0)
	なし		42 (87.5)		44 (80.0)

2. 希望する栄養方法 (表 2)

出産後に希望する栄養方法で、母乳栄養を希望する人は経産婦 37 人 (77.1%)、初産婦 38 人 (69.1%) であった。混合栄養を希望する人は経産婦 11 人 (22.9%)、初産婦 14 人 (25.5%) であった。経産婦は前回の栄養方法が母乳栄養だった人は 29 人 (60.4%) であった。

出産後、母乳栄養を希望する場合、その継続期間は、経産婦は産後 12 か月以上が最も多く 24 人 (64.9%) であった。次いで産後 6 か月 10 人 (27.0%)、産後 3 か月 2 人 (5.4%) であった。一方初産婦では産後 6 か月が最も多く 20 人 (52.6%)、次いで産後 12 か月以上 11 人 (28.9%)、産後 3 か月 7 人 (18.4%) であった。経産婦は前回の栄養方法でも産後 12 か月以上継続している人が 18 人 (62.1%) と最も多かった。

表 2 希望する栄養方法

項目	内容	経産婦 n=48		初産婦 n=55
		前回の栄養方法 度数 (%)	今回希望する栄養方法 度数 (%)	今回希望する栄養方法 度数 (%)
母乳栄養		29 (60.4)	37 (77.1)	38 (69.1)
	産後1か月	1 (3.4)	0 (0)	0 (0)
	産後3か月	2 (6.9)	2 (5.4)	7 (18.4)
	産後6か月	8 (27.6)	10 (27.0)	20 (52.6)
	産後12か月以上	18 (62.1)	24 (64.9)	11 (28.9)
混合栄養		16 (33.3)	11 (22.9)	14 (25.5)
人工栄養		3 (6.3)	0 (0)	0 (0)
無回答		0 (0)	0 (0)	3 (5.5)

3. 妊娠中に受けた母乳育児支援 (図 1)

妊娠中に受けた母乳育児支援について、「よく受けた」、「受けた」、「あまり受けて

いない」、「受けていない」の4件法で調査を行った。「よく受けた」、「受けた」を「受けた」群として抽出し、経産婦と初産婦の比較をした。

その結果、初産婦が受けた母乳育児支援で最も多いのは、乳房や乳頭の「マッサージ・ケア指導」で62.5%であった。次いで「授乳準備（食生活・下着など）」50.0%、「乳頭形態についての指導」44.6%であった。最も少なかったのは「母乳量減少・不足感」12.5%、「精神的支援」12.5%であった。

経産婦が受けた母乳育児支援で最も多かったのは「栄養方法について説明」23.9%であった。次いで「授乳準備（食生活・下着など）」19.6%、乳房や乳頭の「マッサージ・ケア指導」17.4%、「乳頭形態についての説明」17.4%であった。最も少ないのは「皮膚トラブル」10.9%、「授乳前の指導」10.9%であった。

特に乳房や乳頭の「マッサージ・ケア指導」については、初産婦は62.5%が受けたと回答しているが、経産婦は17.4%が受けたと回答した。「乳頭形態についての指導」は初産婦の62.5%が受けたと回答し、経産婦は17.4%が受けたと回答した。「授乳準備」は初産婦の50.0%が受けたと回答しており、経産婦は19.6%が受けたと回答した。「母乳量減少・不足感」については、初産婦12.5%、経産婦13.0%であった。「乳房トラブル」、「授乳前の指導」についてもほぼ同じ数値であった。また「精神的支援」は初産婦12.5%、経産婦15.2%であった。

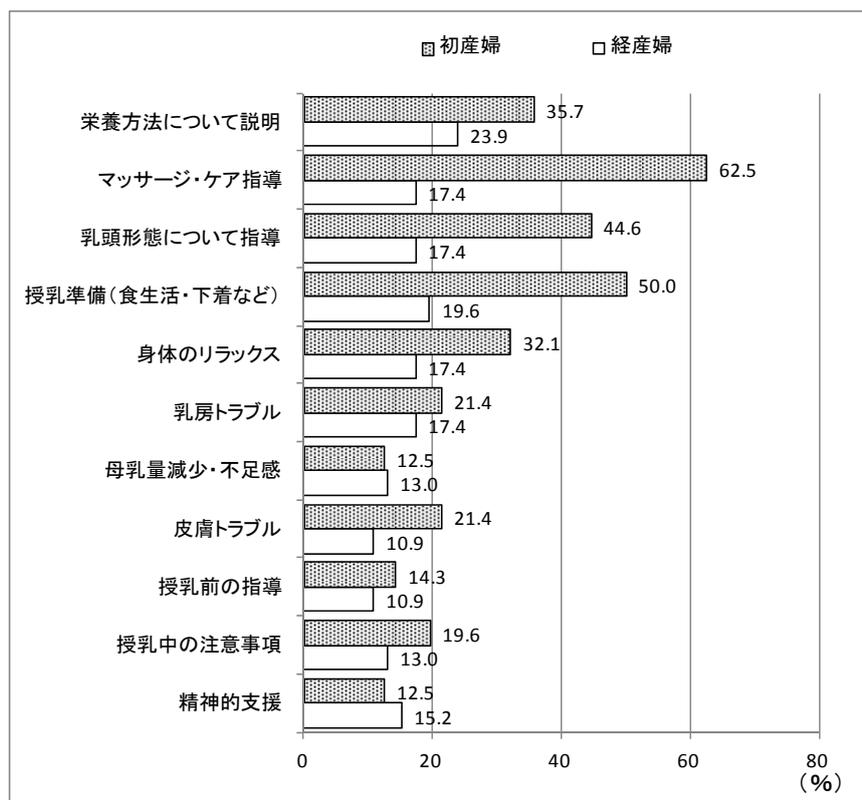


図1 妊娠中に受けた母乳育児支援（経産婦・初産婦）

4. 妊娠中に受けた母乳育児支援（表3）

経産婦が前回の妊娠時に受けたかった母乳育児支援で最も多かったのは、乳房や乳頭の

「マッサージ・ケア指導」で10人(20.8%)であった。次いで「身体のリラックス」9人(18.8%)、「栄養方法について説明」5人(10.4%)であった。今回受けた支援で最も多かったのは、乳房や乳頭の「マッサージ・ケア指導」15人(31.3%)、次いで「身体のリラックス」10人(20.8%)、「栄養方法について説明」7人(14.6%)であった。

初産婦が妊娠中に受けた母乳育児支援で最も多かったのは、乳房・乳頭の「マッサージ・ケア指導」26人(47.3%)であった。次いで「栄養方法について説明」12人(21.8%)、「授乳準備」8人(14.5%)であった。初産婦は「授乳準備」について14.5%が支援を希望していたが、経産婦は0%であった。

表3 妊娠中に受けた母乳育児支援

項目	経産婦 n=48		初産婦 n=55
	前回受けた支援	今回受けた支援	今回受けた支援
	度数 (%)	度数 (%)	度数 (%)
妊娠中			
栄養方法について説明	5 (10.4)	7 (14.6)	12 (21.8)
マッサージ・ケア指導	10 (20.8)	15 (31.3)	26 (47.3)
乳頭形態について指導	3 (6.3)	3 (6.3)	1 (1.8)
授乳準備 (食生活・下着など)	3 (6.3)	0 (0)	8 (14.5)
身体のリラックス	9 (18.8)	10 (20.8)	3 (5.5)
精神的支援	1 (2.1)	1 (2.1)	1 (1.8)
その他	8 (16.7)	5 (10.4)	0 (0)
無回答	9 (18.8)	7 (14.6)	4 (7.3)

5. 出産後に受けた母乳育児支援 (表4)

経産婦が前回の出産後に受けた母乳育児支援で最も多かったのは、「精神的支援」17人(35.4%)であった。次いで「乳房トラブル」10人(20.8%)、「身体のリラックス」4人(8.3%)であった。経産婦が今回受けた母乳育児支援で最も多かったのは「精神的支援」9人(18.8%)、「乳房トラブル」9人(18.8%)であった。次いで「身体のリラックス」8人(16.7%)であった。

初産婦が出産後に受けた母乳育児支援で最も多かったのは「授乳中の注意事項」21人(38.2%)であった。次いで「乳房トラブル」10人(18.2%)、「授乳前の指導」10人(18.2%)であった。

表4 出産後に受けた母乳育児支援

項目	経産婦 n=48		初産婦 n=55
	前回受けた支援	今回受けた支援	今回受けた支援
	度数 (%)	度数 (%)	度数 (%)
出産後			
身体のリラックス	4 (8.3)	8 (16.7)	5 (9.1)
精神的支援	17 (35.4)	9 (18.8)	1 (1.8)
乳房トラブル	10 (20.8)	9 (18.8)	10 (18.2)
母乳量減少・不足感	1 (2.1)	1 (2.1)	5 (9.1)
皮膚トラブル	0 (0)	0 (0)	2 (3.6)
授乳前の指導	2 (4.2)	7 (14.6)	10 (18.2)
授乳中の注意事項	2 (4.2)	3 (6.3)	21 (38.2)
その他	4 (8.3)	4 (8.3)	0 (0)
無回答	8 (16.7)	7 (14.6)	1 (1.8)

6. 妊娠中に希望する指導 (表5)

妊娠期間中全体を通して希望する指導について複数回答で質問をしたところ、初産婦は

11項目の全てにおいて80～90%の割合で希望していた。特に「分娩の準備」，「分娩の時期」，「産後のおっぱい」の3項目は95.5%の初産婦が指導を希望すると回答していた。

経産婦が妊娠期間中全体を通して希望する指導で最も多かったのは「妊娠中の異常」88.6%であった。次いで「妊娠期・授乳期の栄養」81.8%，「産後のおっぱい」81.8%であった。経産婦においても60%～80%以上の人が，11項目全ての指導を妊娠中に希望すると回答していた。

妊娠中に希望する指導の各項目を経産婦・初産婦で χ^2 検定を行ったところ，「分娩の時期」は経産婦よりも初産婦の方が有意に高かった ($p < 0.05$)。また「産後のおっぱい」についても初産婦のほうが経産婦よりも有意に高かった ($p < 0.005$)。他の項目では有意差は認められなかった。

表5 妊娠中に希望する指導（複数回答）

指導を受けたい項目	経産婦 (%)	初産婦 (%)	<i>p</i>
妊娠中のポイント	72.7	84.1	n. s
妊娠期・授乳期の栄養	81.8	88.6	n. s
妊娠中のおっぱいの手入れ	75.0	93.2	n. s
妊娠中の異常	88.6	93.2	n. s
妊婦体操	75.0	77.3	n. s
分娩準備	65.9	95.5	n. s
分娩の時期	65.9	95.5	*
妊娠中のスケジュール（生活）	72.7	93.2	n. s
産後のおっぱいについて	81.8	95.5	**
退院後の手続き（届け出など）	63.6	86.4	n. s
退院後の赤ちゃんとの生活	68.2	90.9	n. s

* = $p < 0.05$ ** = $p < 0.005$

VI. 考察

1. 妊婦が希望する栄養方法

厚生労働省が2014年に行った母乳育児に関する妊娠中の考えは，「母乳が出れば母乳で育てたいと思っていた」が最も多く52.9%，次いで「ぜひ母乳で育てたいと思っていた」が43.1%となっており，母乳育児を希望する妊婦は妊娠中から多いという結果であった³⁾。今回の結果でも母乳栄養を希望する妊婦は，経産婦，初産婦ともに約70%であり，母乳で育てたいと考えている妊婦は多い。また，母乳栄養の希望継続期間も産後6か月以上が多く，母乳栄養に関する関心の高さが伺える。

特に経産婦は，前回の出産時に母乳栄養であった割合が60.4%であったが，今回希望する栄養方法が77.1%と上昇しており，母乳で育てたいという思いは初産婦よりも高いことが分かった。母乳栄養の希望継続期間については，産後12か月以上が最も多くなっており，前回の経験や，既存の知識も踏まえて母乳で育てたいという意識の高さが分かった。

初産婦では，母乳栄養の希望継続期間6か月以上が最も多く52.6%であった。経産婦と比較すると短期間であるが，今回の調査対象者を妊娠20週以上としているため，妊娠週数によって母乳栄養に関する知識に差があるとも考えられる。初産婦は母乳育児についての知識を母親教室などで学ぶことが多いが，妊娠週数によっては母親教室を未受講である可能性もあり，一概に初産婦は母乳栄養の希望継続期間が短いとは言えないと考える。

2. 妊娠中に実際に受けた母乳育児支援と希望する母乳育児支援

今回の妊娠中に受けた母乳育児支援については、初産婦と経産婦で大きな差が生じている。初産婦は経産婦と比較して全体的に指導を受けた割合が多いことがわかった。経産婦には前回の妊娠・出産経験があるため、指導が省略される傾向にある。特に乳房や乳頭の「マッサージ・ケア指導」、「授乳準備（食生活・下着など）」、「乳頭形態について指導」は、初産婦は約50%～60%が指導を受けているが、経産婦は2割弱しか指導を受けていない。経産婦は、前回の妊娠時に説明を受けているため、理解ができていると捉え、医療者側は指導を省略する可能性がある。そのため、今回のような結果につながったと考える。

一方、「母乳量減少・不足感」などは初産婦も経産婦も指導を受けた割合に差がなかった。これらの項目は、妊娠中よりは産後に指導する内容として挙げられることが多い。そのため妊娠中には指導されることが少なかったと考える。

妊婦が受けた母乳育児支援は、初産婦と経産婦で順位に差が見られた。まず、経産婦が前回受けた母乳育児支援と今回受けた母乳育児支援をみると、双方とも最も多い項目が乳房・乳頭の「マッサージ・ケア指導」であり、次いで「身体のリラックス」、「栄養方法について説明」と続く。道谷内ら⁴⁾は、初産婦は授乳に対するイメージが漠然としており、妊娠中のイメージと産後とのギャップは母乳不足感や吸着困難感となり、母乳育児への困難感を増強させていると述べている。前回の妊娠時には、母乳育児に対して漠然としたイメージだけだったが、母乳育児を経験した結果、具体的なイメージができ、今回はマッサージや栄養方法について学びを深めたいという意識があると思われる。また、母乳育児が思うようにできなかった時には、身体的・精神的な疲労が蓄積することになるため「身体のリラックス」を希望する人が多くなったと考えられる。前回受けた支援と今回受けた支援が同様の結果となったのは、母乳育児を経験した前回の記憶が影響している可能性がある。

初産婦が希望する妊娠中の母乳育児支援で最も多かったのは、経産婦と同様で乳房・乳頭の「マッサージ・ケア指導」であった。次いで「栄養方法について説明」、「授乳準備」となり、経産婦よりも知識面に対する希望が高い。道谷内ら⁵⁾が述べているように、初産婦は授乳に対するイメージが漠然としているために、知識面の充実を望んだ結果だと考える。

3. 出産後に受けた母乳育児支援

経産婦が前回の出産後に受けた母乳育児支援と今回の出産後に受けた母乳育児で最も多いのは「精神的支援」であった。次いで「乳房トラブル」、「身体のリラックス」であり、前回・今回とも順位は同じであった。この結果も前回の母乳育児の経験が影響しているものと考えられる。野口⁶⁾は母乳を与える母親の多くが母乳哺育での試練を受け、意欲低下や母乳哺育から落伍すると述べている。産後の母乳哺育は母親にとって予想以上に困難を要するとされている。母乳は出産後すぐに出るものではなく、児が乳頭に吸着してくれないことも多い。また、乳汁の分泌が多くなると乳房痛にも見舞われる。このような状況の中、経産婦は母乳育児を継続させるための「精神的支援」を求めていたと考えられる。

また、夜間も2～3時間おきに授乳を行うことは身体的・精神的疲労につながり、「身体のリラックス」が必要であったと思われる。経産婦が出産後に受けた母乳育児支援は精神的な支えであり、リラクゼーションであった。助産師、看護師はこのような母親の思いを汲み、母乳育児継続ができるよう支える必要があることが示唆された。

初産婦が出産後に受けた母乳育児支援で最も多かったのは「授乳中の注意事項」であった。以下「乳房トラブル」、「授乳前の指導」と続く。妊娠中に希望する母乳育児支援と同様で、やはり初産婦は技術的な面での支援を求めていることがわかる。これは、まだ妊娠期であるために出産後の母乳育児に対してイメージができていないことが原因であると考えられる。母乳栄養に対する漠然としたイメージは、出産後に直面する母乳不足感や吸着困難感などで大きなギャップとなり、母乳育児継続を阻害する一因となりやすい。そのため、妊娠中から母乳育児に対する正しい知識とイメージを持てるよう指導する必要がある。

4. 妊婦が妊娠中に希望する指導

妊婦が妊娠中に希望する指導として、経産婦と初産婦で差が見られた項目は「分娩の時期」、「産後のおっぱいについて」であった。どちらも初産婦のほうが有意に高い結果であった。経産婦は前回経験しているということもあり「出産の時期」については理解ができていたため、このような結果になったと考える。また、初産婦にとっては母乳育児よりも出産の方が大きなイベントとして捉えられている⁷⁾ことも一因であろう。しかしながら、この2項目であっても経産婦の約60%以上が妊娠中の指導を求めていることも明らかになった。河原ら⁸⁾は経産婦、初産婦ともに入院中の母乳育児指導を希望しており、出産施設による差はないことを報告している。今回の調査では、母乳育児指導以外の指導についても同様の結果が示され、やはり経産婦も初産婦と同様に指導を希望していることが分かった。

経産婦は前回の出産、母乳育児の経験があることから、指導を省略されることもあるが、正しい知識・技術を再確認する意味でも、助産師などの専門職者から指導を受けたいという希望があることが示唆された。

VII. 結論

1. 妊婦が妊娠中に実際受けた母乳育児支援は、経産婦と初産婦では差があり、初産婦のほうが受けている割合は高率である。しかし、経産婦は前回の経験を踏まえ精神的・身体的な支援を求めていることが明らかになった。
2. 妊婦が出産後に受けた母乳育児支援では、初産婦は技術面での支援を求めており、経産婦は精神的な支援とリラックスを求めていることが分かった。医療従事者はそれぞれの希望を踏まえ、母乳育児支援をする必要があることが示唆された。
3. 初産婦は母乳育児について漠然としたイメージしかできていないため、産後に受けるギャップを軽減するためにも、妊娠中から正しい知識を伝える必要性があることが示唆された。
4. 妊娠中の指導については、経産婦も初産婦も同様に指導を求めていることが分かった。初産婦は知識の充実、また経産婦は知識の再確認のためにも妊娠中からの指導は重要である。

謝辞

本研究にご協力いただきました妊婦の皆さま，医療施設の皆さまに心より感謝申し上げます。

参考文献

- 1) 厚生労働省雇用均等・児童家庭局母子保健課平成 17 年度乳幼児栄養調査，2014 年 12 月 25 日入手，<http://www.mhlw.go.jp/houdou/2006/06/dl/h0629-1b.pdf>
- 2) 坂本保子 (2014) : 母乳哺育を阻害している要因に関する研究—新生児期・乳児期の栄養方法に関する調査 (1)，八戸学院短期大学研究紀要第 39 巻，57-66.
- 3) 前掲 1)
- 4) 道谷内美佳，宿野智恵，出口綾子他 (2008) : 母乳育児に対する思いの変化，看護研究発表論文集録，第 40 回 (2008 年度)，29-32.
- 5) 前掲 4)
- 6) 野口眞弓 (1999) : 母親の気持ちを支える母乳ケア，日本助産学会誌 Vol. 13, No. 1, 13-21.
- 7) 前掲 4)
- 8) 河原聡美，梅野貴恵 (2013) : 母乳栄養率・母乳育児支援の出産施設別の比較と母親が望む母乳育児支援の検討，母性衛生 第 54 巻第 2 号，317-324.